夕刊
磐城新聞
二月十三日發行
定價 一ヶ月金[illegible]（郵稅[illegible]）
廣告料金 普通[illegible]
發行所 磐城新聞社
〔日曜祭日翌日休刊〕

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

十二

剰數乘法

剰數乘法とは法の頭の一なる時に用ひられる算盤である

例へば83×15=1245と云ふ場合等に法の十五の內十は掛けぬのである、五のみ掛けて答を出す方法である 十倍、百倍、千倍と云ふ場合も盤珠の排列には少しも變りはない、唯其の位が進むのであるから法の一なる場合にはこの一を省略して十倍、百倍、千倍したものとして掛け合はせればよい（法の殘りの部分と實の相乘積を此に加へればよい）のである

例一

5×15=75

計算法（實五法一五）

實五と法五を見合せ掛算の九々5×5=25の九々に依り實五の桁の次を單位として加へる（五の桁に二を加へ下位に五を置く即ち七五答である）

例二

23×13=299

計算法（實二三、法一三）

一、實三と法三を見合せ3×3=9の九々に依り實三の桁の下位に九を置く（實三は其のまゝ）此の時の盤面二三九

二、次に法三と實二を見合せ3×2=6の九々に依り實の桁の下位（實三の有りし桁）に六を加へる、此の時の盤面二九九、即ち答である

例三

234×107=25038

計算法（實二三四、法一〇七）

一、實四と法七を見合せ4×7=28の九々に依り二八を置く（略す數が一桁であるから、略す桁を除き其の桁だけ下位を單位とする）此の時の盤面二三四二八

二、次に實三と法七を見合せ3×7=21の九々に依り實三の次の桁より加へる此の時の盤面三五〇三八

三、次、實二と法七を見合せ2×7=14の九九に依り實二の次の桁より加へる此の時の盤面二五〇三八

例四

245×123=30135

計算法（實二四五、法一二三）

一、實五と法三を見合せ5×3=15の九々に依り二桁下つて單位として置く此の時の盤面二四五一五

2 次に實五と法二を見合せ5×2=10の九々に依り實五の次の桁を單位として

實五の有る桁に一を加へる此の時の盤面二四六一五

二、實四と法三を見合せ4×3=12の九々に依り二桁下つて單位として加へる

此の時の盤面二四七三五

2 次に實四と法二を見合せ4×2=8の九々に依り實の次の桁へ加へる

此の時の盤面二五五三五

三、實二と法三を見合せ2×3=6の九々に依り二桁下つて加へる

此の時の盤面二六一三五

2 次に實二と法二を見合せ2×2=4の九々に依り下位に加へる

此の時の盤面三〇一三五

即ち、商答四四五五となる

社會の今日

○

颱光る沖津白波立ちまよひ　松濱

あかあかと裏田の畦の榛の間にゆふべ上總の山燒くる見ゆ　鈴木義雄

2月14日

△平將門誅に服す（天慶三）△希臘國々立銀行を創設す（一八二八）△地辷りの『峠』の大地沈下す△わが陸軍の精鋭上海に上陸△呉淞砲臺をわが軍一齊爆撃（昭和七）△國際聯盟十九國委員會は帝國政府の回答書に對する第二次通牒を發す△空前の大豫算案衆議院本會議を通過す△京大總長選擧の結果小西重直博士當選△臨濟宗南禪寺管長選擧の結果加藤至道師當選△コロンビアとペール兩國は國交斷絶戰端を開く△聯盟委員會勸告案可決（同八）

講談

浪人長屋

(12)

日岐武志作
月草道子畫

地獄穴

『あゝ、あーッ……』

と、おびえたやうな、驚きの聲をあげて、誰か、その暗の中に起き直つた氣配がした

女の聲であつた

と、ともに、ぷーンと白粉と髮油の臭ひ

――小花だ

源三郎、小花にちがひないと思つた、急に胸にうづくやうな熱いものが込上げて來た

――氣絶してゐたのだ、今つまづいて轉んだ時に息を吹き返したのだ

源三郎は女を驚かさない樣に

『若しや、小花どのではないか』

と、そつと聲をかけてみた

『ねッ』

女はやつぱりぎよッとしたらしかつた

『小花どのであらう、都築源三郎だ、拙者の聲が分るか』

『あッ、そのお聲は源三郎さまか……』

聲のする方へ暗の中を二人の膝と膝とが、思はず擦り寄つていつた

『やつぱり、そなただつた！』

手と手が暗の中でふれると

『源三郎さま』

『無事でよかつた』

といつて、ひしといだきあつた、源三郎の吐く息があつく女の髮にかゝつた。小花は、うれしさに、もうのどをつまらせてゐた

渡し場で小花が舟から上るや否や、葭の間から三四人の川人足が現れ、矢庭に小花の手足を取つて擔ぎ上げ、この堂へ運んで來たのだ

小花は必死の思ひで抵抗した、その機みに、この穴へ落ち込んでしまつたのだつた

『あゝ、どうしませう、はしたないあたし風情の女のために、あなた樣にまでこんな難儀をお懸け申して』

小花は、源三郎の傍へ寄りそつて、深いため息をもらした

『なんとかして、こゝを逃れる工夫は、ございませぬか』

二人が會うた嬉しさも束の間だつた

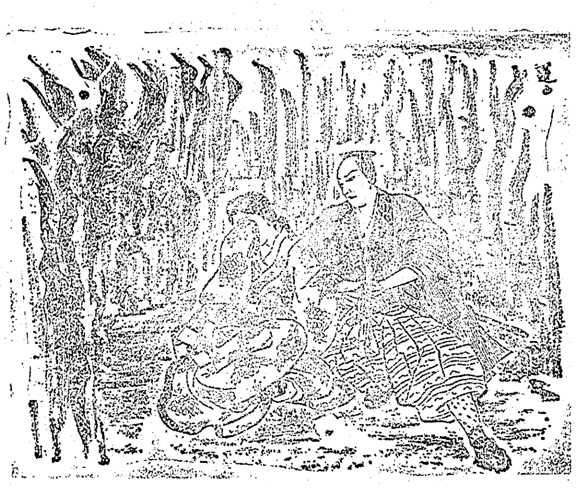
腕組してゐる源三郎の口からも深いため息が洩れた

その男のため息を、小花は絶望だと感じた。逃れる工夫はないのだと思つた

『あたしは、ここで果てたとて別に恨みはござんせぬが、あなた樣が、源三郎さまが、お痛はしうて……』

と言つて、すゝり泣き始めた

突然、突然、穴の上の方で物音がした、二人は思はず見上げると十八九の小生意氣な男の顏が下をさしのぞいて



『やい、小花、源三郎、まだ生きてたら耳の穴をほじくつて聞けいッ、俺ア、栗澤の子分の簸分け平次ッてんだ。お前ぃらのお蔭で親分はでえじの片腕を落としたんだ、その御禮が穴落としだ、待つてろ、水攻めにしてやらア。こゝは名高けゑ地獄穴、上つた奴は一人も無えや、まア、おだぶつの百萬べんも唱へて往生しやアがれ、わは、は、は、は……』

ばたん、と音がして、入口を何か重い鐵板のやうなもので覆うてしまつた

『あッ、水の音がッ……』

小花は叫んだ

こんこんと、何處からともなく水がはいつて來た

ちろちろと不氣味な音をたてながらもう源三郎らの膝近く水ははつて來てゐた

臺灣の正月

と婚禮と葬儀と田舍

伊東一

（1）

二月六日

余は新正月を彰化で送らんとしたが、都合で臺北で越年した

さすが島都丈あつて正月元旦の賑ひは格別である。市中は大小の商店一樣に軒並に定紋の入つたる淡黄の幕を張り廻し三ケ日の間は休んで居る、此の間市中の小供、大供盛に魔除けの爆竹を鳴らして居る。元旦早朝より廻禮について宮詣で賑ふ 朝まだきより市の中心より約一甲位ある臺灣神社へ自動車バスを以て乘り付ける

×

バスは第一の鳥居の前で降りるが自動車はどんどん先へ行く、その爲參詣道路二三丁は綺麗をあびなければならない、トロ上りの坂を登りつゝ右手を見れば樹の間を通して淡水河の景色は云ふに云はれない溶々として白く見ゆる、河幅廣き淡水河が遠近の山や丘に見へかくれして帆上げた舟も見ゆる處に第二の鳥居があつて何れもが自動車を乘り捨てるが此處の兩側の見晴しから見た景色は亦一段た

×

第二の鳥居をくぐれば社務所の前は青芝を敷きつめた樣で多くの寫眞屋が出張して今日を着飾る幾十組か何百組かの記念寫眞を撮つて居る、左手の手洗場で手口をすゝぎて一寸した石段登れば幾多明治、大正年間の將師の奉じた石燈籠と歷代總督の手植の木樹も奥ゆかしく山の中腹にある拜殿と奥殿は綠錆ふいた銅の屋根と共に幾星霜本島の守護神として內地人の渴仰する處である

×

この參拜の途中旗樣のもの押し立て麻の衣着た異形の姿した數人が支那式の音樂と共に連れだつて行く葬禮の一行を見たが本島人には新の元日も何もあつたものでない

本島人の葬婚の賑はしい事は滿洲と同じ事であるが、彰化で余等が夜の散歩の時に市の中央であつた一軒の商家の前に高く臺を並べ、白布を敷いて兩隣りの前まで置き、其上に幾十種となない御料理は豚肉を以つて虎をつくり、若しくは鳥其まゝに燒いて料理、魚菜は申すに及ばす向ひ側の家に迄米やら豆やら米粉餅等り立て其上に本島獨特の仙香を上げて居いた

（未完）

廣告

破魔弓と羽子板を
陳列致しました。
奉祝 皇太子殿下御誕生 用提灯 各種
スガノヤ提灯店
平町四丁目・電話九五番

新學年の御用意
小學生用 中學生用 ランドセル（三十種）
女學生用 一般用 手提カバン（三十種）
マルトモ柴田書店
電話 五九七番 二三四番

大景品付
時計 眼鏡 と大賣出し
移轉改舖記念の爲時價の二割安にて提供
舊正月二日、三日…二日間
二丁目
根本時計店
電話六〇七番

紅茶代用品！
即席しるこ
何處の御家庭でも熱湯さいあれば即席に出來ます
尙一分間炊は一層風味良なります。
在來の晒あんとは全々違ひ日向臭くありません。
小豆の天賦の風味芳香と榮養分を完全保有されて有ます。
一袋正量三七五瓦入（約五人分）金三十錢
贈答品函入 金一圓
製造發賣元 日進堂
平町田町 電話一八六
新草餅を始めました。

新築感謝
萬年筆大賣出し
舊二日より景品呈上
記念金文字御名入無料
お氣に召す迄金ペン交換
五ヶ年絶對責任付
定價一二圓以上
品種豊富……
角忠 佐々木商店
平紺屋町角公園前
電話二三三番

內臟外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

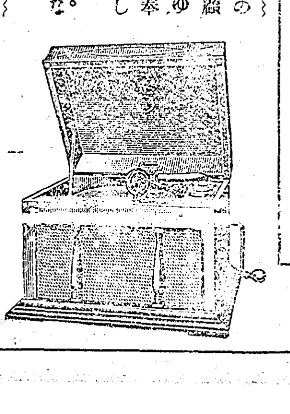
吉例景品付大賣出し
平素の御愛顧に酬ゆる年一回の御禮大提供！
御買初は是非本年もなかやで
舊正月二日、三日の二日間
ふかや洋服店

●舊二日市 ― 大特價・景品サービス
中野洋品店の初賣

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
入院隨意
病室完備
醫學士 山內亨吉
山內醫院
電話六九一番

日本一
富士自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。月見橋際

吉例初賣
二月十五日
舊正月二日、三日（午前二時開店）
年中の御愛顧に酬ゆる大奉仕として。もれなく。
…大景品呈上…
競つて御來店をお待して居ります。
時計、眼鏡 貴金屬類 蓄音機
金光堂
平町五丁目（[illegible]）電一九五
（ビクター・コロンビヤ…特約店）



從業員が千五百名殖え
二十四萬四千噸を增送
好調裡に過ぎた昨年の炭界

インフレ景氣、重工業の發展と極めて好いづくめの條件に惠まれた常磐炭界の昨年中を顧る、先づ三大炭鑛其他を網羅する常磐石炭鑛業會々員及其以外の送炭高を見ると

（單位千噸）

區分	數量	對比增△減
磐城	七九九	六四
入山	三七一	三九
古河	一八三	二九
大日本	一四九	五
大倉	八二	一
福島	五六	五
五十嵐	二〇	△一
正會員計	一、七六〇	一五四
其他	四〇三	九〇
合計	二、一六三	二四四

で即ち會員七炭鑛中前年より赤字となつたのは僅かに一鑛に止まり、他は磐城の六萬四千噸を筆頭に前年より夫々增加を示しその增差額全常磐を通じ二十四萬四千噸に上つてゐる、次に各鑛に於ける採炭、支柱、後山、選炭、運搬、機械、工作、其他男女全從業員の昭和七、八年末現在は

區分	八年末	七年末
磐城	四、三五六	三、六七三
入山	一、八〇五	一、四七八
大日本	一、七九一	一、四九三
古河	八三三	七三三
大倉	四七六	三九六
福島	三一三	三〇八
五十嵐	七九	九二
合計	九、六五三	八、二七五

で一二の小炭鑛に殆ど問題ならぬ程度の減少がある丈けで大部分は何れも著しい增加を示し鑛業會關係の全體を通じ實に千四百七十八名の增となつて居る

今月上旬石炭發送激增
前年同期を突破する事
千七百車一萬六千噸

春早々增送また增送の輕快なステップを續けて居る常磐炭山元の去る一日以降十日迄の發送高は

營業用四、三五九車 五三、一八八噸 省用一、九五一車 二四、六九六噸 合計六、三一〇車 七七、八八四噸

で前年に比し營業用一、一五一車一二、五〇四噸、省用五五七車三、七五五噸、合計一、七〇八車一六、二五九噸と云ふ激增振りを示して居る

倉田磐炭技師『歐米行脚』を出版
五百ページの見聞錄

內郷村磐城炭鑛技師住吉坑長工學士倉田龜之助氏は大正十五年七月三井坑より着任後三ヶ年間に亘り歐米各國を視察した新智識で此程炭鑛に關する『歐米行脚』五百頁を著した

海軍兵徵募
川崎少佐來平

本年度に於ける海軍兵採用試驗は既報の如く來月廿七日より三日間本第三小學校で開かれるので町では此程志願者十五名（四名欠席）に對し數學、國語、視力等の豫備檢査を行つたが成績極めて良好であつたと、尚執行官は橫須賀鎮守府少佐川崎進氏と決定した

各校卒業式

磐中二百十六名、磐女百八十五名平商三十八名の卒業式は左の日時に執行する事に決定した

磐中（第三十四回）七日午前十時、磐女（第二十二回）十八日午前九時、平商（第十九回）十二日午前九時

。。。。三村氏童話 平町三小學校では今十三日鐵道省勤務三村良輔氏を招き第三校午前十時半、第一校同十一時、第二校午後一時から夫々童話會を催した

產馬獎勵資金申請

石城產馬畜產組合ではさきに種馬共同購入獎勵金として八年度分十五頭（六百圓）を認可されたので更に九年度分として目下各方面から受付けて居るが交付金は一頭につき五十二圓位であると

。。。。平商公民校休業 平商校內實業公民學校は舊歲末年始の爲め昨十二日より六日間休業中

醫療券交附數

昨年七月以降各町村から平町役場へ依管になつた恩賜財團濟生會の醫療券交附數は延二百八十七名である

。。。。高月句會月並會 來月三日午後六時から二丁目鶴屋旅館荻野天仙方で催すが兼題左の如く會員外の參加も歡迎すると

春淺し、凧、雅子

第三方部青年團總會
來月四日聚樂館で開催

既報—郡下第三方部青年團長會は昨十二日午前十一時から平第一校に開催、役員選擧の結果會長に篠山第一校長、副會長には仲村辰四郎氏を再選、總集會は來月四日午前九時から聚樂館で催し、名士の講演、團員の意見發表、各團二名の劍道試合、時局映畫上映等に決定した

辨償を免除され引責の局長甦る
桑原問題の田村彥四郎氏

先年局員桑原庸夫が莫大の印紙切手類を橫領消費した廉により岩手縣一の關に轉任された上約一萬二千圓の辨償責任ありとの判決を受け毎月辨償しつゝあつた前平局長田村彥四郎氏は此程の恩赦令に浴し辨償責任を免除され感激してゐると

通信相談所
平局の窓口に新設

平局では來月より窓口に通信相談所を設け一般の便利を圖る事となつたが擔當者は局務全般に通じたる相當の人物を配置する筈である

『磐城ダルマ』を聞く
新舞子

中

此の邊でも水稼業の家などで特に瞳の入つてゐないのをなど注文がありますが又妙な風習に市で商人がこれを竊いでゐると店に出した半分は盜まれる、此の習慣は小名濱の市にあります今でも、密かに隙を窺つて盜み取ればその年福德が多いといふ迷信なのです

○

平の市にも昔はあつたが今は廢れたし、前にもいつたやうに五錢といつても十錢置いて行くやうな有樣です。再たこれはうれしい習しですが、この片濱方面の眞言宗の各寺で正月の半ば過ぎ二十日か二十四日頃の大般若講にもこの賣市が立ちますが參詣の人々は皆市からこれを買つて行く、歸りに買つて行く所もありますが彼處では往きに買つて行く

○

市の店に達磨が無くなればなくなるだけお寺のお棚にギツしり詰ります、名前を賣りの裏に書いて行くのですが、これに大般若講のお護摩の風を當てる、これを家に持ち歸つてお棚に安置する、お神酒を供へて一家相和して祝意を表する、かう言ふ習しはうれしいものです、眞に信心の表れです

○

磐城達磨といへばニラミの良いので評判です、他方には三尺を越すものもありますが、最大が尺五寸、最少が三寸あたりでせう。このニラミに惚れ込んで東京あたりからも特別に誂へに來ます、寄山の佐鄕屋といへば鄕土玩具の問屋で大人上り小法師といへば子供の玩具ですが、大人のおもちやとなれば只ひげむぢやで赤い衣では受けません

○

ニラミがきくから惡魔を排ふ、傾きかけた身上も持ちなほす七轉八起に緣起をかついで昔はその年の家內安全無病息災を禱るといふので家族の數より一つ餘計に買はれたものですが。今は神棚に二つもお安置してあれば良い方です、人心が浮薄になつたといふのでせう

○

この達磨別して達磨さま（菩提達摩—梵 BODHI—DHARMA）達磨大師ですな、に係合ひはないやうです。若しあるとすれば法華さま（日蓮宗）や眞言宗の寺などで騷がれる筈もないし、求める人もあれば禪宗だからなんて選り好みをするものです

○

只起上る、七轉八起の緣起が買はれるのでせう。知つたか振りのやうだが一つ達磨大師の由來でも話しませうか

投槍
投書歡迎

。。。。區費完納の提唱

◇區費の輕減は目下各區を通じて叫ばれ中には生活の不如意から僅か五、六錢の才劃がつかず平身低頭延滯を嘆願する氣の毒な家庭も見受けられる狀態だ

◇決算期の切迫した各區では嵩み行く滯納に少からず頭を惱まして居る樣だが、再三の督促もさる事ながら更に一步進んだ『區費徵收法改善策』を講ぜられては如何のものか？此際その一策として『徵收箱』の設置方を要望する

◇鎌田町の如き昨年來全町を六區に分け毎日二錢乃至五錢を入れさせ最近舊正月を前に開函した處がその一人當りの配當高何と十餘圓の多きに上つた、不知不識の蓄へ金と思へば尙更有難い樣な氣がした

◇その殆とが農家で留守勝ちなこの町でさへこれだけの良績をあげたのだ、區費完納の上に配當と、一石二鳥の妙案を敢て吹聽する（愛町生）

磐城粉進出
田人から東京へ
三十俵出荷

田人村農會では蒟蒻粉三十俵を東京方面に共同出荷したが相場は一時百四十圓に低落せるに拘らず當業者の研究向上に再び上州粉を壓して百七十圓の最騰を示して居る

入山電話
平町と直接通話
開通

湯本町入山坑務所では過般來他炭鑛同樣平局の電話加入手續き中であつたが此程開通（五七七番）し非常に便利となつた

怪いは背負籠とマント着のお客
買り初めの萬引に就て某番頭君談

始ど夜中起きしての買ひ出しに夜のあける頃から漸く町中芋の子を洗ふゴッタ返しの場面を展開する恒例二日の買り出しは愈々明舊元日の中一日に迫つた、顧客の吸收に目の色變える商人と良き景品にありつかんと其の混雜に乘せんとする掏摸、萬引と拔許緊張の三重奏に其筋でも例年通り官私服の警察官を總動員して之が取締りに當る筈であるが此日を當て込んで大に橫行活躍（?）する萬引に就て某老舖の番頭さんは語る

『一番警戒を要するのは背負ひ籠を背負つたのとマントを著た客です、パフツとマントを冠せて其の下で仕事を遣られると一寸わかりません——その際に籠の中へ拋り込まれると何處で買つて來た品だか皆暮れ見當がつかなくなり怪しいと睨み乍らも圖星を指し兼ねる事になるんです、幸にして發見した時は威猛高に取り戻しに掛つたり仰山に追ひ掛けたりするよりも——その方の品代は未だ頂きませんでした、とか——二つ御入り用なんですか、位に持ち掛けると大抵容易に品物が戻り先方を傷けずに濟むと云ふもんです、御婦人の心得違ひなどは矢張り月例事故中の方が一番多いらしいんですなあ』

白米を持ち寄つて平町の一夜講習會
宇津木靈水氏來平

平町では來る廿一日午前九時より翌廿二日午後四時迄東京修養團宇津木靈水氏を招き一夜講習會を開くが人員は男女百名限りで希望者は十八日迄城山磐城家政學園宛申込まれたいと經費一人白米一升外十錢を要する

各小學半休
舊正元日と二日

平町各小學校では明十四、十五日は舊年頭に當るので午前九時始業で朝の豫習復習を廢し午前中だけで授業を短縮する事になつた

新入兒童六百七十名
受付は來月二十五日

平町來年度新入學兒童の取扱は來月二十五日に決定したが第一校二百十七名、第二校二百十八名、第三校二百三十七名、合計六百七十二名あり未だ寄留屆せぬ向は至急屆出られ度いと

。。。。中堅農民講習 石城中堅農民講習會は來る十六日より三十日間平團体事務所樓上で開かれるが受講者九十八名で今回は主に學科であると

。。。。發動機講習會 平町では來る十八日より三日間會議室脇で發動機講習會を開く

派手な藝者稼業に
親を顧みぬ三人娘
老夫婦が平署へ保護願ひ

內郷村大字宮字宮澤無職安藤利作（七八）は藝者となつてゐる長女マサノ（四三）外二人の娘が最近親を顧みないので生活に窮し今十三日妻トメ（六八）と共に平署に出頭保護を願ひ出た

曉方に煙草屋襲はる
遺留の指揮刀も贓品か
湯本吹谷の泥棒騷ぎ

今曉三時頃湯本町吹谷雜貨商川俣久米吉宅に賊忍び入り店先よりバット四函（五十個入）朝日三函（二十個入）響二函（同）價格二十六圓五十錢を窃取逃走、急報により平署員が取調べると入口には陸軍少尉帶用の指揮刀が遺してあり其他二三ヶ所物色した形跡あるので引續き嚴探中である

寒夜の路上に行倒れ
身元不明の啞ルンペン
平町で行路病舍に收容

一昨十一日午後十一時頃平町北白銀町鐵道官舍附近に一見廿七、八歲位乞食風体の男が寒さの爲人事不省に陷つて居るを通行人が發見平署に屆出たので係官が出張取調べた處同人は昨年來平町に流れ込んだ通稱『ターザン』と言ふ乞食で口がきけぬ處から身元も判らず一と先づ行路病舍に收容した

。。。。尼子橋會送別會 平町小學校出身者よりなる磐中尼子橋會の卒業生送別會は一昨十一日午後一時から第一校講堂に開かれたが卒業生約五十名出席二百名盛會を極めた

。。。。第三卒業生見學 百三十名は今十三日石田、吉田兩訓導に引率され常磐銀行警察署を見學した

。。。。平卓球決勝戰 平卓球協會の六チームリーグ戰は此程常磐銀行樓上で開催したが決勝戰は來十八日第三校講堂で行ふと

。。。。警戒網に入る 當時住所不定無職東京市城東區砂町生れ吉葉伊三郎（三三）は今曉二時頃小川鄕鐵道合宿に忍び入り永澤吉江、小澤淸外一名所有の衣類數十點（價格百八十餘圓）を窃取逃走せんとした處を折から歲末警戒中の平署員に逮捕された

。正誤 八日附紙上『捲機に挾まれ即死』記事中六日は去月卅一日、杉本英三は光吉の誤りにつき訂正

十四日
日出 六、三〇 月出前 六、三〇
日沒 五、二一 月沒後 五、三八
滿潮 前六、二五 後五、三五 干潮 前一一、四五 後——
日食前八、三四 新月前九、四三

舊一月一日
水曜 丙辰 先勝 滿 箕宿
新二月十四日

諸判定廳簿
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神 [illegible] 發

▲一白の人 一分の隙もなく緊張して萬事に臨めば安全▲二黑の人 思案に餘れば識者に計り勉强次第にて發展▲三碧の人 弱き心を引立て難事に當るも狼狽せず勵め▲四綠の人 餘裕しやく〱として事に動ぜず英氣を養ふが吉▲五黃の人 がん前の小利に迷はず永遠の計を樹つべき日▲六白の人 長上の引立を受け出世の端緒を得る大吉日▲七赤の人 根强き地盤を形成して希望達成の域に進む▲八白の人 熱狂にほとばしり常軌を逸して過ちを招くべき日▲九紫の人 雨降つて地固まり禍ら却て福となる金談凶

廣告

美味で評判の
イワキサロン
平町電三三五二

刀劍研磨
白鞘調製
刀劍柄卷
刀劍買入
研師 翠光齋
主 船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

舊二日市
大景品付大賣出し
……時計。メガネ……
……パイプ。ライター……
山崎時計店
平町五丁目新川町通り

電話開通
平局五七七番
入山坑務所

銘木ト建築木材ノ御用命ハ
今一番勉强スル當店ヘ
建築材一式
建具材
便利瓦
（余）織田材木商店
平町字紺屋町四〇
電話四六〇番
極優良材榧將棋盤アリ格安讓リタシ。

舊正初賣ノ景品御準備
本年ハ漆器ノ他ニ小雜貨類モ取揃ヘ御便宜ヲ計リ極力勉强奉仕致シマス故是非本年モ御愛顧ノ程ヲ御願ヒ致シマス。必ズ格好ナ品ガ有リマスカラ御照會下サイマセ。
各國產漆器
記念表彰品
恩賜賞典品
進物贈答品
景品賞品類
（小店員、外交員、至急募集）
平町三丁目北裏通
（共）共榮漆器店

內外建築材
建具材
（入）阿部材木店
磐城國平町（公園下）
電話四九四番